

《担当者名》准教授 / 町田 拓自

【概要】

様々な疾患の治療において中心となるのが治療薬を用いる薬物療法である。適正な薬物療法を行うためには、病態についての基礎的知識、用いる治療薬についての薬理学知識、そして治療薬の実際の使い方を統合した薬物療法学の知識が重要である。

「薬物療法学」は病態と治療についての統合的な知識修得を目指す科目である。医療人として医療現場への関わりがますます多くなるこれからの薬剤師には、専門性の高い薬物療法的知識の修得が常に求められる。

「薬物療法学」では、末梢神経系の自律神経系、体性神経系、そして平滑筋に作用する薬物と生体との相互作用すなわち薬理学を中心に、機能形態学的、病態生理学的知識も交えて体系的な理解を図る。

【学修目標】

自律神経系の生理解剖学的特徴と、これに作用する薬物がどのような薬理作用を持ち、また、どのような疾患に適用されるかが説明できる。

局所麻酔薬の作用機序と、それぞれの薬物がどのような薬理的性質を持ち、どのように応用されるかが説明できる。

骨格筋における興奮収縮連関を、筋弛緩薬の作用機序と関連付けて説明できる。

平滑筋の収縮、弛緩における細胞内情報伝達機構、様々な平滑筋作用薬、作用機序を説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	自律神経系作用薬 1 教科書：p63～75、p141～149 資料を配布する。	自律神経系の生理解剖学的特徴や、交感神経系および副交感神経系による拮抗的二重支配を説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 C7-(1)- -2 E2-(1)- -1	町田 拓自
2	自律神経系作用薬 2 教科書：p149～156 資料を配布する。	アドレナリン作用薬を分類し、代表的な 作動薬および 作動薬の薬理作用と臨床応用、副作用を説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(1)- -1 E2-(1)- -1	町田 拓自
3	自律神経系作用薬 3 教科書：p156～164 資料を配布する。	抗アドレナリン作用薬を分類し、代表的な 遮断薬および 遮断薬の薬理作用と臨床応用、副作用を説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(1)- -1 E2-(1)- -1	町田 拓自
4	自律神経系作用薬 4 教科書：p164～168 資料を配布する。	コリン作用薬を分類し、代表的な直接的コリン作用薬および間接的コリン作用薬の薬理作用と臨床応用、副作用を説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(1)- -2 E2-(1)- -1	町田 拓自
5	自律神経系作用薬 5 教科書：p168～171 資料を配布する。	抗コリン作用薬を分類し、その代表的な薬物の薬理作用と臨床応用、副作用を説明できる。 瞳孔の調節機構と、主な散瞳薬および縮瞳薬の作用機序を説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(1)- -2 E2-(1)- -1	町田 拓自
6	自律神経系作用薬 6 教科書：p171～173 資料を配布する。	神経節作用薬を分類し、代表的な節遮断薬の薬理作用と臨床応用を説明できる。 代表的な自律神経系作用薬の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。	町田 拓自

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(1)- -3 E2-(1)- -1	
7	体性神経系作用薬 1 教科書：p175～180 資料を配布する。	局所麻酔薬の化学構造および適応方法、作用機序を説明できる。 代表的な局所麻酔薬を挙げ、その薬理作用、臨床応用、副作用を説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(1)- -1	町田 拓自
8	体性神経系作用薬 2 教科書：p180～186 資料を配布する。	活動電位発生の仕組みを説明できる。 神経筋接合部の形態と機能を説明できる。 興奮収縮連関を説明できる。 筋弛緩薬を分類し、その薬理作用、作用機序、臨床応用、副作用を説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(1)- -2	町田 拓自
9	平滑筋作用薬 1 資料を配布する。	平滑筋の収縮、弛緩における細胞内情報伝達機構を説明できる。 平滑筋弛緩薬を分類し、代表的薬物の薬理作用、作用機序、臨床応用を説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(1)- -1,2	町田 拓自
10	平滑筋作用薬 2 資料を配布する。	平滑筋の収縮、弛緩における細胞内情報伝達機構を説明できる。 平滑筋弛緩薬を分類し、代表的薬物の薬理作用、作用機序、臨床応用を説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(1)- -1,2	町田 拓自

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

- ・所定の定期試験（知識領域のテスト）の成績より評価する（100％）。
- ・受講態度に問題がある場合、注意・通告の上試験成績より減点することがある（最大10点）。

【教科書】

「詳解 薬理学」 廣川書店

【参考書】

「パートナー薬理学」改訂第2版 南江堂

「New薬理学」改訂第7版 南江堂

みてわかる薬学「図解薬理学」南山堂

【学修の準備】

- ・指定した教科書の関連する項目を事前に読んで予習しておくこと（40分）。
- ・予習時に不明な専門用語の意味等を事前に理解しておくこと（20分）。
- ・講義内容の学習課題へ到達できるよう毎回復習すること（50分）。

【関連するモデルコアカリキュラムの到達目標】

C7 人体の成り立ちと生体機能の調節

(1) 人体の成り立ち

【 神経系】-2

E2 薬理・病態・薬物治療

(1) 神経系の疾患と薬

【 自律神経系に作用する薬】-1～3

【 体性神経系に作用する薬・筋の疾患の薬、病態、薬物治療】-1,2

【 化学構造と薬効】-1

【薬学部ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

2. 有効で安全な薬物療法の実践、ならびに人々の健康な生活に寄与するために必要な、基礎から応用までの薬学的知識を修得している。
3. 多職種が連携する医療チームに積極的に参画し、地域的および国際的視野を持つ薬剤師としてふさわしい情報収集・評価・提供能力を有する。